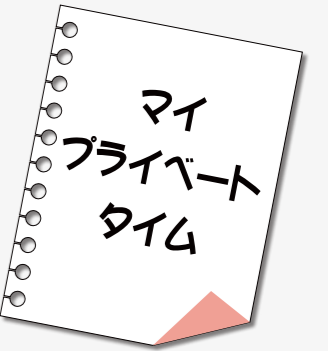


地域に生まれ、 地域とともに歩む



たなかけんじ
久喜市長(埼玉県) 田中暄二
Kenji Tanaka

生い立ち

私は久喜市内で明治23年創業の卸売業の4代目として生まれました。昭和44年に早稲田大学を卒業後三菱石油株式会社に入社したものの、父が早逝したため、急遽家業を継ぎました。先輩や仲間から恵まれ、順調に事業の拡大をすることができました。

そのころ久喜駅前再開発事業の計画が持ちあがり、商店会や地域の方々から私を市議会議員にとの話をいただき、昭和62年の市議会議員選挙で、トップ当選することができました。



平成22年11月 感謝の合併記念式典での筆者(左端)

その後、平成3年に埼玉県議会議員、平成9年に久喜市長、平成22年には、久喜市・菖蒲町・栗橋町・鷲宮町合併後の新久喜市初代市長に就任し現在に至っています。地方自治に携わり26年。選挙は8回経験しました。

振り返れば、高度成長期右肩上がりのサラ

リーマン時代から、オイルショック、地方分権時代、リーマンショック、行財政改革、東日本大震災等さまざまな困難な時代の波を経験してきました。

新久喜市の誕生

市町村合併については、当地域では平成16年9月に一度住民投票で失敗した苦い経験があります。しかし私はどうしても諦めきれず、勇気を奮い再チャレンジしました。さまざまな経過はありましたが、幸いにも合併特例法の期限内の平成22年3月23日に久喜市・菖蒲町・栗橋町・鷲宮町が合併し新久喜市(合併時人口約15万7000人、面積82.4km²)が誕生しました。県知事を迎えての新市誕生の記念式典では、感涙にむせびました。合併できたのはただひとえに4市町の首長同士の固い信頼関係があったことに尽きます。また、合併後の新市名を「久喜市」と認めていただいた当時の1市3町の議会議員および市民の皆さま方から感謝しています。

新久喜市はJR、東武鉄道が通過していて5つの駅を有しています。また東北自動車道久喜インターチェンジ、圏央道久喜白岡ジャンクション、白岡菖蒲インターチェンジ、さらに国道は3本通過していて、公共交通網の充実した地域です。近年ではこの立地を活用すべく工業団地

の造成が進められていて、安定した税収、雇用の確保につながっています。一方で自然豊かな田園地帯も広がり、梨やイチゴの県内有数の産地となっています。自宅から少し歩くと緑の美しい風景が広がっていて、この素晴らしい景観を必ずや後世に残していかなければならないと思います。

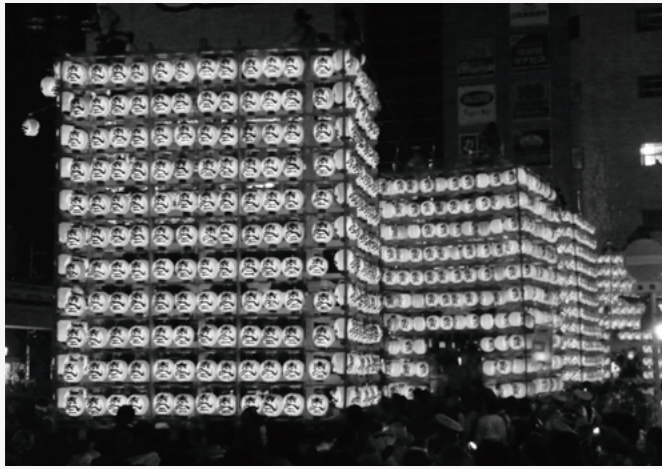
東日本大震災

東日本大震災では、南栗橋地区を中心に液状化という甚大な被害がありました。当時の国の支援にかかわる認定の基準では、南栗橋地区の被災者の方はごくわずかな被害状況の差で支援を受けることができませんでした。このようなことに私は納得できず、同様の被害を受けた自治体の首長の皆さまと連携し、埼玉県や国に対して働きかけを行い、困難と思われた支援の基準を見直していただくことができました。しかし、それでも国の支援が届かない被災者の方がいることから、久喜市独自の支援を行っています。

今回の支援策を実現する一連の運動展開の中で、古くからの友人や県の職員、また同様の被害を受けた自治体の首長の皆さまには言葉では言い尽くせないほど大変お世話になりました。「仕事は人と人との信頼に基づいて可能になる」といった当たり前のことを改めて強く感じました。

夏祭り(天王様)

久喜市(久喜地区)には天明3年(1783年)から始まったと伝えられている夏祭りの天王様があります。私自身も地域の伝統の祭りとして、子どものころから約60年この祭りに関わっています。昼間は神話などから題材をとった人物の人形を山車に飾り付け、夜は一転して約500個の提燈を山車の四面に灯します。山車の運行に伴い提燈のろうそくが揺れる様は幻想的にさえ見えます。また、この祭りは提燈をつけた山車を急接近させたり、回転させたりすることから「喧嘩まつり」とも言われています。久喜地区にはこれといった大きな河川や山が無いので、ふるさとを遠く離れた市民はまずこの「提燈祭り」を懐かしく思い出し、時には久喜市に戻ってきて祭りに参加することもあるようです。近年、同じ久喜地区の上清久の山車も加わり、山車は全部で10台になりました。運行は毎年7月12日、18日の2日間です。山車は人が出ないよう安全点検を入念に行うなど、動くまでの準備や終了後の撤収にも相当の手間暇がかかります。また、祭りが近くなると御囃子を練習する声



220年余の歴史・伝統を誇る天王様

近くなる御囃子を練習する声

が聞こえてくるようになります。祭り当日は、普段顔を合わせる機会の少ないさまざまな年代の人々が一堂に会します。最近では女性の参加も多くなりました。このような伝統行事が、失われつつある地域のコミュニティを支える大きな力となっているのは大変嬉しく、ありがたいことです。これからも久喜市の大切な伝統行事として発展することを願っています。

音楽の素晴らしさ

私は子どものころから歌うことが大好きです。特に男声合唱のあの地を這うようなハーモニーにひかれて、大学時代はグリークラブに所属し、春・夏の休みには全国を演奏旅行で飛び回っていました。

近年では、久喜総合文化会館で市民によるベートーベン作曲交響曲第九の演奏会が開催されており、私も喜んで毎年参加をしています。練習日は土日の夜間を中心に20回程度。市長職たるもの土日とはいえ休みはありませんので、夜間の練習日には公務を終えると、正直「疲れたから自宅でビール片手にプロ野球のナイター中継でも見たいな」と思うこともあります。気持ちを持ち鼓舞して練習会場に行きます。午後10時ごろに自宅に帰ると「やっぱり練習に参加してよかった」と思うから不思議です。これがコーラスの魔力でしょうか？

演奏会当日はコーラス部門だけでも男

結びに

民間会社勤務時代の経験を生かしつつ、夏祭り(天王様)やコーラスなどの友人、東日本大震災で液状化などの被害を受けた市民、合併時激論を交わした方々、多くの市民の皆さまと交流をしていく中で「後世に何を残せるか」というテーマを常に念頭に置きながら、「至誠通天」の精神でこれからも市長職に全力で取り組んでまいります。



旧知の友人となったベートーベン(筆者は中央)